

2015年5月29日

芝浦工業大学外部評価委員会

I. 経緯と総評

1. 経緯

2014年度大学外部評価にあたっては、大学が作成した自己点検・評価書に基づき、5名の外部評価委員が事前に書面評価を行った後、2014年2月23日に、全外部評価委員と村上学長をはじめ副学長、各学部長・研究科長、事務局長等学内関係者が出席する委員会を開催し、学長による総括的な説明や質疑応答を踏まえて最終的な評価を行った。本総括は、同委員会の議事録及び5名の外部評価委員が事前に提出した所見に基づき、評価の結果をとりまとめたものである。なお、2014年はグローバル人材育成推進事業の外部評価年にもあたるため、その成果を確認するため、プログラム参加の学生3名のインタビューを行った。

2. 総評

建学の精神を基本に据えながら、グローバル化が進む社会の文脈の中に、芝浦工大の使命と目指す姿を明確に位置付け、それを学内で共有し、学外に広く示しながら、学長のリーダーシップの下、改革を進めていることを高く評価したい。

これらの取組の成果は、志願者数の増加、科学研究費補助金の増加、文部科学省の各種補助事業の採択などに明確に表れており、2014年度はスーパーグローバル大学にも選ばれている。大学の外から見ても、その勢いを感じる。

アジア工科系大学トップ10という目標の下、理工学教育日本一、知と地の創造拠点、グローバル理工学教育モデル校、ダイバーシティ推進先進校、教職学協働トップランナーという5つの目標を掲げ、それぞれに数値目標を置いて、取組を強化している。

最も大切なことは、これらの取組の成果が、学生の成長につながることである。それをどう評価し、教育の質の高度化を持続させることができるか、注目していきたい。同時に、個々の教員が教育力・研究力を高めるとともに、組織的な教育と研究を展開することが求められる。また、職員が幅広い視野と高度な専門性を持って、大学経営に能動的に関わり、教員と協働して教育研究の高度化に貢献することも、今後ますます重要になってくる。これらの点についても、大いに期待しつつ、その進捗と成果を見守っていきたい。

今回、初めて学生インタビューを実施した。グローバルLF、海外インターンシップ参加者、海外語学研修プログラム参加者の3名であり、いずれも第一志望校を断念または不合格となって本学に入学したそうである。しかしながら、目を輝かせながら、芝浦工大に来て良かったと嬉しそうに話していた。学長をはじめ教職員各位にそのことをお伝えして、外部評価委員会の総評を結びたい。

以下、項目別の評価については、5人の委員の見解を可能な限りそのまま記載している。

II. 教育・学生・研究及び質保証への取組

1. 理念・目的

- (1) 2017年の創立90周年の芝浦工業大学像の具現化をめざす、チャレンジSIT-90作戦の実質化のステージにあつて、教職員と学生の協働による「世界に学び、世界に貢献する理工学人材の育成(SHIBUARAモデル)」を掲げ、人材育成の目的、その他の教育研究上の目的等が適切に設定されている。
- (2) 「理念・目的の適切性についての定期的な検証」については今回の様な定期的な外部評価により実施されている。定期的な検証のシステムも構築され、機能していると考えられる。認証評価において指摘された事項や本評価委員会において外部評価委員が指摘した事項についても、改善に結びつけるように真摯な取り組みが行われている。
- (3) 私立理工系大学として唯一「スーパーグローバル大学創成支援」に採択されたことは素晴らしい。この情報は、新聞等マスコミを通じて、一般社会にも広く認知されており、本学の理念・目的を知らしめていると考える。
- (4) 定期的なアンケート調査により、学生の満足度の把握を行っているようであるが、アンケート結果の説明があることが望ましい。具体的な状況の把握が必要である。

2. 教育内容・方法・成果

- (1) 各学部については、教育目標や学位授与方針を定め、ホームページ等で公開するとともに、それに基づいてカリキュラム方針を定め、カリキュラムの構造化に努めている。その一方で、教育内容・方法・成果について、大学、学部、学科の間で役割・責任がどのように分担されているのか、報告書からだけでは判然としない。
- (2) 大学院については、教育目標や学位授与方針の明確化や公表という点で、学士課程に比べて不十分な印象が否めず、組織よりも個々の教員任せになっている面も見受けられる。志願者増や収容定員充足率の向上などの課題もあり、これらの明確化を通して本学大学

院の魅力を広く社会にアピールできるよう一層の取り組みを期待したい。

- (3) 教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させているかについては、セグメントごとに多面的かつ多様な努力がなされており高く評価できる。
- (4) 学位授与、教育目標、学位授与方針の適切性については、定期的に検証を行っているかどうかについて、自己点検・評価書からだけでは、全体像の把握が難しい面があり、来年度以降、簡潔なもので良いので、より分かり易い記述をお願いしたい。
- (5) 「学士課程教育の多様化にともない学士課程で教えきれなくなっている内容がある。それをどのように修士課程に持って行くか検討する必要がある」（理工学研究科 P. 37）との記載があるが、学士課程と博士前期課程をリンクさせた6年一貫学修制度などの検討が全学的に進むのか、次年度の評価の場などで方針や取組を聞きたい。

3. 学生の受け入れ

- (1) 学部・研究科とも学生の受け入れ方針を明示し、適正な学生募集および入学者選抜を行っている。その上で、5つのカテゴリーでの入試では、それぞれどのような配慮をしているか、それぞれにより詳細の検証を行うことが期待される。
- (2) 留学生、社会人にわたる多様な選抜を行うとともに、「国境なき科学」における留学生の受け入れ、SGUプログラムの採択、あるいはハイブリッド講義など積極的な取り組みがある。
- (3) 学部の志願者は概ね増加基調にあり、女子学生も志願者・合格者数とも増加傾向にあるが、学科別に見ると志願者数が増加基調にある学科とそうでない学科があり、短期的な変動に過敏になる必要はないものの、動向を慎重に見極めておく必要がある。
- (4) 大学院の研究科は、専門職学位課程と博士後期課程で苦戦が続いており、修士課程も前年度より志願者数を増加させたものの、志願者数・合格者数・入学者数の関係や専攻別の動向など、丁寧に検証し、課題を明確にする必要がある。研究力の強化を目指すためには、博士後期課程を含む大学院の強化・充実は不可欠であり、全学的な取り組みを期待したい。博士後期課程の早期修了制度（1年で修了）に無理はないか、十分に検証してほしい。
- (5) 女子学生・留学生を増やそうと努力している点は、時代の要請に合致している。次年度は具体策をより明確に示してほしい。また、女性教員を増やす努力を行っていることは確認できたが、実現が難しい面もあると考えられるので、一層の取組とその成果に期待したい。
- (6) 一般入試で選抜された学生が多いこと、全国から学生が集まる傾向は学生の多様性を確保する上でも良いことと考える。一方、本校から海外へ行く学生数が多いことに比して

来日する留学生の数が全学生の1%にとどまっている点が気になる。留学生との交流は学生の語学にたいする学習意欲を向上することはもちろん、日本に居ながらにして「世界に学ぶ」良い機会であるので、より積極的に留学生を受け入れることが大切と考える。障がいのある学生を含め、年齢、性別、経歴の違い等のある多様な学生と一緒に学ぶことは良い効果をもたらす。日本の大学は一般に多様に乏しいのでこの多様性をます方向で学生募集、入学者選抜をすると良いのではないか。

4. 学生支援

- (1) 修学支援、生活支援、進路支援など、いずれも体制が整備され、きめ細やかな対応がなされていると評価できる。各学部学科、研究科においてきめ細かい支援活動が行われていると思います。一方で、学生の学修支援の具体はセグメントによらず学部および研究科を横通すことによって全学横断的に行われるべき側面もあるので、その必要性を含めて一層の対応を期待したい。
- (2) 退学・離籍に関するデータについても、退学理由別人数などを含めて整理されており、大学として対策に力を入れている様子がうかがえる。進路についてのデータも示されているが、その他に分類される人数が依然として少なくないため、より詳細な進路データの把握・共有化に努めていただきたい。(この点については、(公財)大学基準協会の整理に従ったもので、学内ではより詳細に管理していることを確認している。)
- (3) 工学部の「学習サポート室」のような制度は非常に素晴らしい。担当する教員にとっても学生の陥りやすい難点がわかるので双方にメリットがある。学生への認知度、利用率はどの程度かなどのフォローを期待したい。

5. 研究活動と研究体制の整備

- (1) 科学研究費補助金をはじめとする競争的資金の獲得額も増加基調にあり、研究のアクティビティも高まっていることがうかがえる。
- (2) 2014年度の科研費助成金額では全国で45位に位置しており、また競争的研究資金マニュアルを持続的に更新整備するとともに産学連携・研究支援課等が支援を行っている。個々の教員の研究活動はおおむね活発に行われている。研究活動のさらなる発展には、研究体制の一翼を担う大学院・研究科の人的・物的整備充実が不可欠であり期待したい。
- (3) 科学研究費補助金を申請する教員の比率は十分な水準とはいえ、報告書では種目別の採択件数や採択額も明らかではない。私立理工学系の雄を目指すならば、全教員が科研費を申請し、より大型の種目を獲得することにも大学としてさらに力を入れる必要がある。

る。

- (4) 組織的研究活動の環境整備にも取り組んできた。研究予算・スペースの配分や研究設備・装置の計画的かつ戦略的導入に関する学内調整、学内共通機器の利用に関する整備等、学内における研究環境整備を進めている。
- (5) 学内共通機器利用、U R Aの組織的整備、事務体制の強化、論文（国際共著論文等）の増加などは今後のどの大学にとっても共通する課題であり、また取り組みが要請されており、積極的な取り組みを期待したい。
- (6) 教員の授業負担が総じて高く、教員間の負担にもバラツキがあるように見受けられる。バラツキを少しでも是正すると同時に、管理運営的業務の効率化などを進め、研究できる環境を整えることも今後の課題と思われる。

6. 内部質保証

- (1) 毎年度、大学基準協会の評価基準・項目に基づき、各学部や各研究科における教育、研究、社会貢献等の活動状況に関する自己点検・評価を実施しており、各部局で自己点検報告書をまとめている。
- (2) これらを日々の教育活動の改善にどのように繋げていくのか、評価のための評価にならないように如何に実質化するかなどの点について、一層の注力と工夫を期待したい。
- (3) 財務状況や事業計画が大学ホームページ等に掲載されている。

Ⅲ. 文部科学省採択事業への取組

1. グローバル人材育成推進事業への取組

- (1) 本学のグローバル人材育成推進事業は、JABEE 基準の上に、国際的に求められる能力を育成しようとする点に特色があり、教育改革全体の促進が期待されている事業であるが、学長のリーダーシップの下、大学として強力に推進されており、そのことが、スーパーグローバル大学創成支援（SGU）の採択に繋がったものと考えられる。
- (2) 本事業においては、カリキュラムの構築、短期語学研修、工学英語研修、海外インターンシップ、海外ボランティアなどの多様な活動に学生を参加させることによって、キャンパスのグローバル化を相乗効果的に推進している。理工学分野において、グローバルな視点をもつことはとりわけ重要であり、本事業の推進およびその成果は顕著である。学生の成果発表を聞く機会があったが、生き生きと体験を語る姿を頼もしく拝見した。
- (3) 具体的な成果として、日本人学生の海外派遣者数が急増し、TOEIC 対策講座に予定人員

の3倍もの学生が応募するなど、学生の国際志向が強まる傾向も表れてきている。

- (4) 若者が海外へ行きたがらないと言われる昨今、本学の学生の海外派遣数が年を追うごとに1.5~2倍のペースで増加していることは高く評価したい。TOEIC対策講座等、英語教育に力を入れてきた成果と思われる。
- (5) 学生の学修成果の可視化に向けた取り組みも行っているが、具体的にどのような成果に繋がっているのか、特定のプログラムに参加した学生のみならず、大学全体にどのように波及しているのか、などがより明確になるようなフォローアップを期待したい。

2. 文部科学省採択プログラムへの取組

- (1) スーパーグローバル大学創成支援をはじめ、文部科学省が進める多様な支援事業に採択されていることは、申請内容の革新性が評価されただけでなく、これまでの取り組みが着実に成果に結実しつつあることが評価されたものと考えられる。本学の諸改革が学外からも高く評価されていることの証左であり、この勢いが教育研究のさらなる高度化により具体的かつ実質的な形でつながることを期待したい。
- (2) 2014年度に採択されたSGU、AP、2013年度に採択されたCOC、女性研究者研究活動支援事業等は、世界に学び、世界に貢献する理工系人材の育成のプログラム推進の原動力となる事業でもあり、その相乗相補効果によって国際化、教育の質保証、SITブランド、あるいはイノベーション創出への参画といった取組みが加速・充実されると期待される。
- (3) 女性研究者研究活動支援事業は、最終年度にも関わらず、数値目標達成が難しいようある。女性枠等を設けている大学もあることから、更なる積極策が必要と考える。
- (4) 理工系大学の強みである産学連携関連事業の採択を目指し、個々の教員のレベルでなく、組織としての取組を強化してほしい。また、インターンシップは学生のモチベーション向上、企業への刺激にもなり、双方に利益がある。「社会に学び、社会に貢献する実践型技術者の育成」を建学の理念に掲げる本学が、他に先駆けて魅力あるプログラムの提案をし、先進的なモデルケースとして実施されることを期待する。

以 上 (文責：吉武博通)